

厳島神社：三福神の絵

日本の神話における七福神は、信仰心の証および神々を喜ばせる贈り物として神社に捧げられる絵馬のための、一般的な絵のモチーフです。福神たちは、繁栄と商売の神様「恵比寿」、農業の「大黒天」、邪鬼から守る「毘沙門天」、美と芸術の「弁財天」、知恵と長寿の「福祿寿」、健康と長寿の「寿老人」、および福の神「布袋」です。これらの神様がグループとして最初に言及されたのは室町時代（1336～1573年）でしたが、それぞれの神様はその起源に関する独自の歴史を持っています。仏教を起源とする神様もいれば、ヒンドゥー教が起源の神様もいます。恵比寿は純粋な日本の神様です。

大黒天、寿老人、布袋が描かれているこれら3つの掛け軸は、狩野探幽（1602～1674年）の作品です。探幽は狩野派で最も拔き出た絵師の一人でした。狩野派は政権からのひいきを受け、江戸時代（1603～1868年）の大部分を通して日本の絵画界に権勢を振るいました。この巻物がどのようにして厳島神社にたどり着いたのかは、残念ながらはっきりしていません。